

授業アンケート
から



学生の選んだ

*Tokai Univ. Teaching Award
Prize Winners List 2015*

「いい授業」



教育支援センターのホームページ
<http://www.esc.u-tokai.ac.jp/>



東海大学教育支援センター

検索



東海大学教育支援センター

発行●東海大学教育支援センター 編集●教育支援センター教育支援課 発行日●2015年5月30日
TEL●0463-58-1211(内線2087) E-mail: shien@tsc.u-tokai.ac.jp

TOKAI UNIVERSITY
EDUCATIONAL SUPPORT CENTER

一緒につくろう!『いい授業』



今回も学生の皆さんが選んだ「いい授業」を担当している先生方を表彰させていただきましたのでお知らせします。

この冊子の中で紹介しているように、

「分かり易い」、「聞き取りやすい」、「関心が持てる」、この3つが

『いい授業』にとって、もっとも重要な要素だと

いうことがわかってきています。

これからは、「関心が持てる」だけでなく、

皆さんが「もっと勉強してみたい」と思えるような

授業にしていくことが大切だと思っています。

先生方がいろいろと工夫し、より良い授業を展開できる

ようになるためには、皆さんに答えていただく

「授業についてのアンケート」が、大切な役割を担っています。

面倒と思わず、これからもアンケートへのご協力を

よろしくお願いいたします。

皆さんと一緒に『いい授業』をつくり、

より良い大学にしていきましょう!

東海大学学長 山田 清志

東海大学が育成する力

— 自ら考え、集い、挑み、成し遂げる力 —



- **自ら考える力**…常に未来を見据え自ら取り組むべき課題を探索する力
- **集い力**…多様な人々の力を結集する力
- **挑み力**…困難かつ大きな課題に勇気をもって挑戦する力
- **成し遂げ力**…失敗や挫折を乗り越えて目標を実現していく力

授業アンケートから

学生の選んだ『いい授業』

Teaching Award 2015 優秀賞受賞者 (2014年度選出)

札幌教養教育センター ■ 和泉 光則 先生

健康科学部社会福祉学科 ■ 小林 理 先生

外国語教育センター第二类 ■ 中島 仁 先生

情報教育センター ■ 永野 光浩 先生

文学部 ■ 北欧 学科



東海大学Teaching Awardの選考方法

東海大学では「授業力向上」のために、1993年度から学生による授業アンケートを行っています。『いい授業』を行っている先生方を表彰する制度「東海大学Teaching Award」は、1年間に開講された講義科目の授業を対象として、授業についてのアンケートの「総合評価平均評価点」、「科目履修人数」、「アンケート実施率等」を考慮した候補者リストの中から、学部等より候補者を推薦していただき、さらに学長室(2015年度より大学運営本部)が中心となって厳正なる審査を行った結果、2014年度は4名の受賞者と1団体が決定いたしました。

記載内容の注意とお願い!

- ① 授業科目名は2015年度春学期・秋学期に開講される「主な3科目」です。
- ② 授業内容はキャンパスライフエンジンから「シラバス検索」で確認できます。
- ③ 教職員が授業を見学する場合は「授業時間割表」で教室を確認し、授業開始前に担当教員に申し出て見学してください。
- ④ 所属等は2015年4月現在です。



izumi@tokai-u.jp

●授業を通して想いを伝えたい



2014年度
優秀賞

私は決して授業が上手ではありませんが、常に「他人の言葉を鵜呑みにせず、自分の目でしっかり見て考えて欲しい」と願いながら講義しているように思います。本学の教育指針に「若き日に汝の思想を培え」とありますが、大学で学ぶことのひとつの意味は、自分の世界観・価値観を自分自身で築いていけるようになることであり、そのためどの授業にも担当する先生一人ひとりの想い、メッセージが込められていると思います。

授業を通じて私の伝えたい想いが学生の皆さんにしっかり伝わってもらえたら嬉しい、そういう願いが私には特に強いと思います。



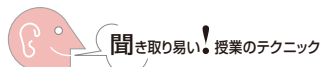
札幌教養教育センター
和泉 光則先生
Izumi, Mitsunori



●憶えることが多い「化学」では黒板にチョークで板書、感じる事が主体の「知識とコミュニケーション」ではパワーポイントの使用など、授業の目的によって方法を使い分けています。



●童話・童謡・映画など、できるだけ身近で実感しやすい素材を用いています。授業を聴いて興味をもってくれた人は学生相談室に来てくれることもあり、そこで熱く語り合っています。



●マイクを使わない授業では大きな声で、マイクを使う授業では柔らかい声で話すよう意識しています。それから「黒板を見ながら喋らない」というような基本は守ろうと心がけています。

授業を良くするために活用していることは?

東海大学授業研究会

湘南校舎で毎年開催されている東海大学授業研究会には可能な限り参加・発表しようと思っています。授業向上のモチベーションがとて高まるのでとても感謝しています。

Student Voice

国際文化学部国際コミュニケーション学科3年次生 荒家 優さん

●講義では心理学的な対人関係について学びました。先生はアニメーションを使ってわかりやすく説明してくださったり、ご自身の体験談をふまえて、人との様に接するかを教えてくださいました。先生の講義を受けて私はコミュニケーションについて改めて深く知りたいと思い、積極的に色々な交流イベントに参加するようになりました。



2015年度春	科目名	必選	単位	開講校舎
	化学	×	4	札幌
	化学実験	×	2	札幌
	知識とコミュニケーション	×	2	札幌

2015年度秋	科目名	必選	単位	開講校舎
	化学	×	4	札幌
	生命倫理	○	2	札幌
	知識とコミュニケーション	×	2	札幌

●知識と知識をつなぐ背景を理解

伊勢原校舎は、国家試験をめざす学生が多いのですが、国試を意識しない学生も授業を楽しめているか、といつも自分に問いかけます。これは海外研修航海で、他学部や教学などの教職員との洋上講座や学生との関わり方を学ぶ経験を持ったことがきっかけでした。国試のために暗記するだけの知識なら総合大学で勉強する意味は薄いと思います。知識と知識をつなぐ背景となる歴史や考え方の理解は、生



2014年度
優秀賞



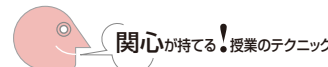
きた経験となって長く記憶に残るはずです。また、同学科の他教員の科目と自分の授業との関係も積極的に話題に取り入れて、知識と知識のつながりの理解を目指しています。



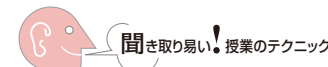
健康科学部社会福祉学科
小林 理先生
Kobayashi, Osamu



●授業のはじめは、前回のハイライトをふりかえることから始めています。社会福祉が歴史的に積み上がるプロセスなどテーマが数回にわたる場合、受講者がいまだこにいるのか、の共有をめざしています。



●短期的な暗記よりも、長期的に記憶に残るよう、時間の流れや空間の広がりイメージを意識して取り上げています。学生が読む余裕のない文学や映画をとりあげるのも背景の理解をめざす試みです。



●ノートイクボランティアが授業に入ることも多いです。ある程度のみとまりを話したら、少し間をおいて、筆記できたり、メモできたりする時間をとることで、リズムのめりほりにもなり良いと思います。



Student Voice

健康科学部社会福祉学科4年次生 渡邊 美結さん

●授業はポイントが書かれたレジュメに沿って進められ、そのポイントに付随した知識を書き込んだり、その日のまとめをミニツペーパーで提出するなど、手を動かすことが多いです。要点をまとめることで、頭の中が整理され、授業をより理解できました。また、意識的に授業を聞く姿勢が身につく、積極的に授業に参加するようになりました。

授業を良くするために活用していることは?

ミニツペーパー・授業参観ほか

FD研究会などで常に他の教員の工夫を取り入れています。板書の活用で、受講者が時々手作業をとおして整理し、めりほりをつけるようにしています。

2015年度春	科目名	必選	単位	開講校舎
	子ども家庭福祉論A	×	2	伊勢原
	社会福祉管理運営論	×	2	伊勢原

2015年度秋	科目名	必選	単位	開講校舎
	子ども家庭福祉論A	×	2	伊勢原
	社会福祉管理運営論	×	2	伊勢原



外国語教育センター第二類
中島 仁先生
Nakajima, Hitoshi

● お互い話しやすい授業



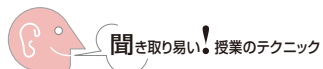
2014年度
全ての授業に共通して意識しているのは、受講者全員の名前を覚えて、個人個人に声をかけることです。そうすることで、一方的に授業をするのではなく、学生の方からも質問したり話しかけやすい環境を作るようにしています。自分が学生だったらどうだろうということも、できるかぎり考えて授業内容などの計画も立てたり、適宜調整しながら授業を進めたりしています。また、学生各個人がどれくらいできるのか、習熟具合をできるだけ把握して、練習問題を解く時などにアドバイスをしたり、追加で説明をしたり、全体の説明以外にも個別の対応をして理解を深められるよう心がけています。



●一度学習したことを次の時間に再度説明したり、その数週後に復習問題を解いてみたり、同じ項目を繰り返し学ぶことで理解を深められるようにしています。



●単調にならないように視聴覚教材を用いたり、ゲーム的要素を取り入れたり、できる限り変化を与えるようにしています。また、多くの学生に答えさせることで緊張感が持てるようにしています。



●説明は複雑にせずできるだけ簡潔にして、キーワードを繰り返し言うようにしています。板書もできるだけ大きく、そして複数色使用してポイントを分かりやすく見やすくするようにしています。

授業を良くするために活用していることは？

意見交換・会話

他大学の先生とどのように授業を進めているかなどの意見交換をしています。また学生と直接話しながら、もらった意見や気付いたことは、少しでも改善するようにしています。

Student Voice

文学部アジア文明学科4年次生 高橋 理沙さん

●質問しやすい雰囲気があり、わからないことをその場ですぐに解決できます。先生は、答えをすぐに教えるのではなく、自ら考えて答えが出せるよう導いてくださるので、より理解を深めることができます。先生の授業でコリア語のスキルが身についたことはもちろん、何事にも気負わずチャレンジしてみようという気持ちが芽生えました。



2015年度春	科目名	必 選	単 位	開講校舎
	コリア語講読中級1	×	2	湘 南
	コリア語入門1	×	2	高 輪
	第2外国語1	○	2	湘 南

2015年度秋	科目名	必 選	単 位	開講校舎
	コリア語入門2	×	2	高 輪
	第2外国語2	○	2	湘 南

● 分からないことはその場で解決

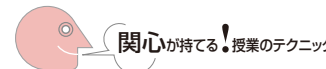
パソコンを使って音楽を作る授業を担当しています。実習型の授業では、分からないところはその場ですぐに質問してもらうことが重要です。そういう観点から、「質問しやすい雰囲気」、「私語のない授業環境」を大切にしています。また、学生の理解浸透具合を確かめながらゆっくり進める時間と、学生が個々のペースで制作できる時間とを明確に分けることで授業の流れがスムーズになるようにしています。



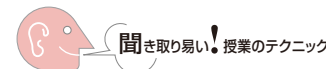
成績評価は客観的な評価ポイントを授業内で明示しています。音楽は表現です。学生の作品の中にあるその表現の芽を伸ばすように心がけながら、アドバイスをするようにしています。



●制作途中の作品を聞き、問題があればそれを指摘し、良いところは良いと伝え、その場で次の展開を指示します。それを繰り返すことで何ができて何ができないかをはっきりさせながら、スキルアップしていきます。



●音楽の素材(課題曲)は自分で選択させ、好きな曲で授業を受けられるようにしています。同じ曲でも、自分の感性を盛り込むことで曲調は変化します。そこから表現することの楽しさを学びます。



●重要なポイントは、より強調して話したり、関連する複数の事柄を絡めて何回か話したりしています。また、教室のモニターシステム(教員のPC画面が映し出されます。学生2人に1台)も活用しています。

授業を良くするために活用していることは？

授業アンケートほか

「授業アンケート」と「授業」は学生とのキャッチボールです。特に「改善してほしい点」は、とても参考になります。

2015年度春	科目名	必 選	単 位	開講校舎
	ミュージッククリエイション	×	2	湘 南
	アドバンストインフォマティクスA	×	2	湘 南

2015年度秋	科目名	必 選	単 位	開講校舎
	ミュージッククリエイション	×	2	湘 南
	アドバンストインフォマティクスB	×	2	湘 南

onken@syd.odn.ne.jp



情報教育センター
永野 光浩先生
Nagano, Mitsuhiro

学科全体で取り組む授業に対するイメージづくり

今回の「東海大学Teaching Award」では、賞の創設以来はじめて、文学部北欧学科が団体受賞しました。東海大学の創立者である松前重義博士が北欧の考え方に強い影響を受けるなど、北欧は本学と強い結びつきのある国々です。

その北欧の言語、社会、歴史、文化について深く研究・教育しているのが北欧学科です。1学年約60名という少人数の中で、教員と学生との距離が近く、とくに教員の熱意に関して学生から評価を受けています。

北欧学科の先生方から授業の取り組みや学生について話を伺いましたので、本特集では北欧学科の特色ある教育についてご紹介します。

① 北欧学科の授業について

北欧学科では、主に言語、社会、歴史、文化に関する授業を展開しています。北欧を知るためには、まず北欧の人々が語ることを理解する必要があるとの考えから、言語教育に力をいれ、卒業するまでに北欧の言葉を少なくとも一つは習得することを目標としています。そのため、教室での授業だけでなく、カリキュラムには「北欧語海外研修」という北欧を訪問する科目もあり、学生は自ら北欧を体験できるようになっています。北欧社会の心を学び、実際に文学や芸術に触れることで、自分自身や日本の社会について考え、「自らを見つめる目」を養います。

「デンマーク語入門」や「北欧の児童文学」などを担当されている福井信子先生はご自身の授業について「外国語を学ぶ楽しさや教材について、自由な感想を述べてもらえるよう心がけています。授業を通して、学生が作品を手にとるきっかけを与えることができれば」といいます。北欧の作品は、アンデルセン童話やムーミンなど、幼い頃から目にする機会が多く、馴染みやすいものばかりです。身近なものを教材として使用し親しみを感じてもらうことが、学生の興味・関心を喚起させる鍵となっています。

「スウェーデン概論」や「デンマーク史」を担当している佐保吉一先生は「学生には考える力を身につけさせるために、感想や意見を記入させ、それを集約しプリントで配付します。人にはいろいろな見方や考え方があることを学んでほしい」と話しています。意見を集約する作業は時間を要しますが、他人の意見を知る貴重な機会となっており、学生からは好評です。

授業内容の理解を深めるため、「ノルウェー語入門」などを担当している森信嘉先生は、「原則として授業の中で小テストを行い、次の授業でそれをフィードバックしている」といいます。学生の現状を把握し、学生の気持ちに語りかけることを大切にするきめ細やかな学生指導が学習効果を高め、学生が教員の熱意を感じるにつながっています。

ノルウェー史などを担当している池上佳助先生は「言葉が持つ力、聞き手の心の中に入り込み、知的な好奇心を呼び起こす「言霊」の存在を信じています」といいます。未だ実現途中ではありますが、柔らかく熱い語りによって学生を知的な感動の世界に導いていくことを目指しています。

② 北欧学科の学生について

北欧学科は、言語や外国に興味がある学生が多く在籍しています。北欧の言語はもちろんのこと、ドイツ語やロシア語など他の地域の言語も積極的に学んでいます。また、東海大学が協定を結んでいる北欧各国への留学を推奨しています。学生は現地生活の中で北欧の社会、歴史、文化、人々の生活を実際に体験します。

上倉あゆ子先生は、「授業を通して、ものごとには多様な側面があり、「たった一つの正しい答え」があるものばかりではないと意識させている」といいます。また、吉田欣吾先生は「学生には音や映像に頼らず、頭の中で想像・創造できる力を身につけてほしい」と話しています。

このような考え方のもとで、学生は既成の枠組みにとらわれず、自由な発想をもとに自らの力を試す経験を通し、柔軟な思考力を培っています。

学生に対するバックアップ体制として、学科はシラバスや試験問題を持ち寄っての検討会を開催したり、学生の動きについて全体で情報を共有するよう努めています。



③ 北欧学科全体での取り組み～北欧学のすすめ～

個々の教員の授業における工夫も大切ですが、どのような学科の雰囲気を作り出すかも、学生が勉学に興味・関心を持つためには重要です。

北欧学科は、非常勤教員の協力も得て学科全体で、『北欧学のすすめ』という本を作成し、学科開講科目の参考図書として指定しています。この本は学科のカリキュラムに対応する構成となっており、北欧を知るうえで重要だと思われる事柄すべてを一冊にまとめ、授業の方向性を理解する手助けとなっています。

その使い方として、例えば、新入生は学ぶ言語を選択する前に、北欧の言語について基本的なことを説明した「入門北欧語」のページを参考にすることができます。また、巻末には各分野の推薦図書が多く掲載されており、レポートを書くとき、あるいは自分でさらに勉強を深めたいときの道標としての機能も果たしています。

『北欧学のすすめ』は、高校生にも読んでもらえるようなものになっているのも特長の一つです。学科では、本学の付属高校の進路指導の先生方にも同書をお送りし、高校生に北欧について興味・関心を持ってもらうためにも活用しています。

北欧学に出会い、授業に対するイメージをふくらませるきっかけをつくる学科全体での取り組みが、学生の探究心を育み、授業に対する評価につながっているのかもしれませんが。



授業アンケートから

学生の選んだ『いい授業』

Tokai Teaching Award 受賞者一覧(2002~2013年度)

*退職者、名誉教授、掲載辞退者を除いています。*2007年度以前は選考方法が異なり最優秀賞と優秀賞があります。



文学部アジア文学科	葉 千栄 先生	2002年度 2003年度 2007年度最優秀賞 2012年度
文学部文芸創作学科	堀 啓子 先生	2007年
文学部英語文化コミュニケーション学科	斎藤 早苗 先生	2003年度
文学部英語文化コミュニケーション学科	川崎 修一 先生	2003年度 2006年度
文学部心理・社会学科	浅井 千秋 先生	2007年度
文学部心理・社会学科	有沢 孝治 先生	2006年度 2008年度
政治経済学部経営学科	岩谷 昌樹 先生	2006年度 2009年度
法学部法律学科	田上 麻衣子 先生	2009年度
教養学部芸術学科音楽学課程	梶井 龍太郎 先生	2003年度 2004年度
教養学部国際学科	カーター ジェフリー G 先生	2005年度
教養学部国際学科	小貫 大輔 先生	2007年度 2010年度
教養学部国際学科	高橋 宏明 先生	2004年度 2005年度
体育学部体育学科	今村 修 先生	2003年度最優秀賞 2005年度
体育学部競技スポーツ学科	高妻 容一 先生	2002年度最優秀賞
体育学部武道学科	天野 聡 先生	2012年度
理学部数学科	古谷 康雄 先生	2006年度
理学部情報数学科	土屋 守正 先生	2007年度
理学部物理学科	遠藤 雅守 先生	2005年度
理学部物理学科	江川 浩 先生	2003年度 2004年度
理学部化学科	関根 嘉香 先生	2003年度 2004年度 2008年度
理学部基礎教育研究室	及川 義道 先生	2002年度
情報理工学部情報科学科	内田 理 先生	2005年度
情報理工学部コンピュータ応用工学科	浅川 毅 先生	2002年度 2007年度
工学部応用化学科	長瀬 裕 先生	2005年度
工学部電気電子工学科	大山 龍一郎 先生	2006年度
工学部機械工学科	神崎 昌郎 先生	2004年度
工学部航空宇宙学科航空操縦学専攻	新井 直樹 先生	2013年度
工学部航空宇宙学科航空操縦学専攻	柴田 啓二 先生	2011年度
観光学部観光学科	菅井 克行 先生	2011年度

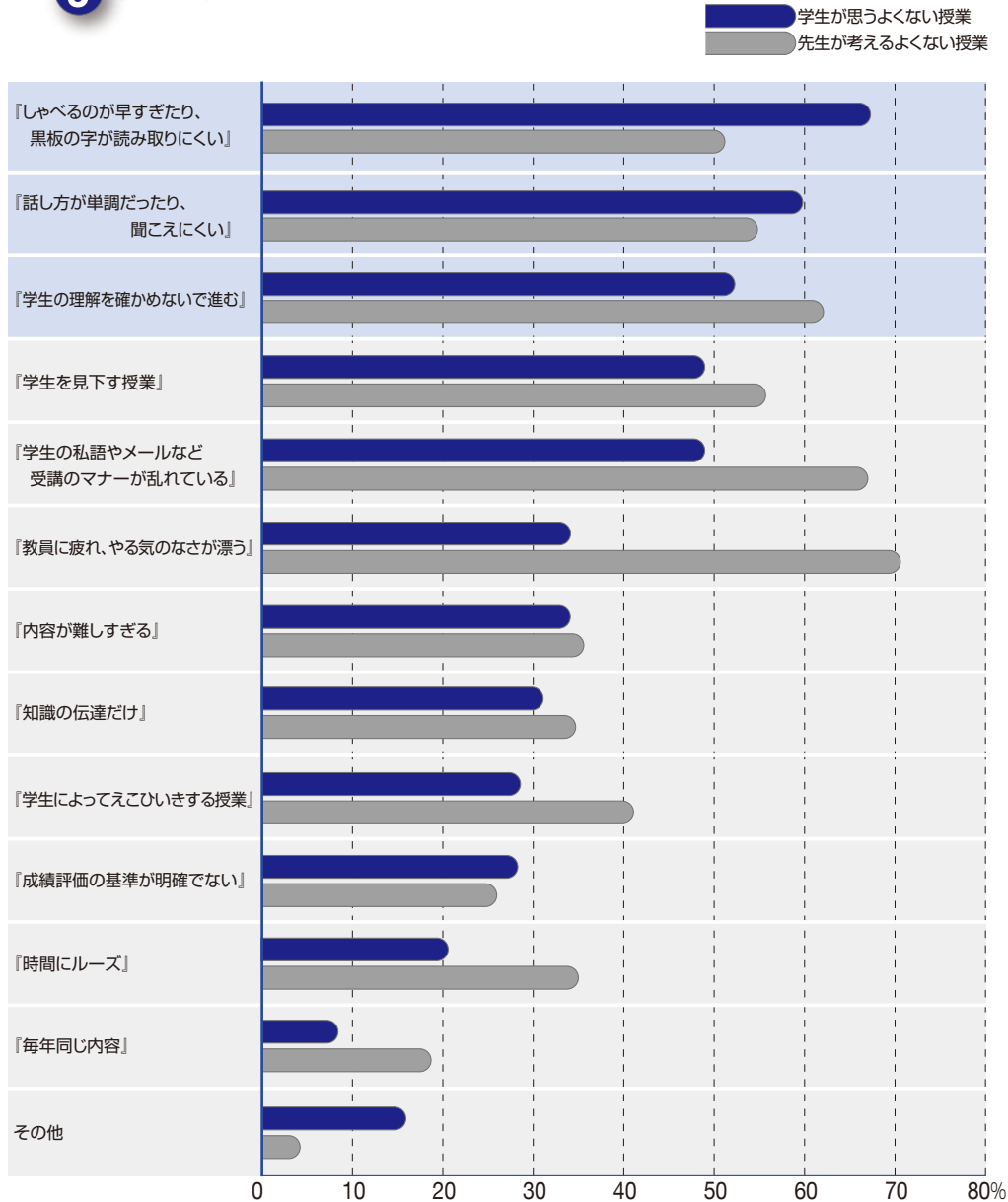
観光学部観光学科	立原 繁 先生	2010年度
情報通信学部情報メディア学科	濱本 和彦 先生	2002年度
情報通信学部経営システム工学科	西口 宏美 先生	2007年
情報通信学部経営システム工学科	森山 弘海 先生	2003年度 2004年度
海洋学部水産学科生物生産学専攻	鈴木 伸洋 先生	2006年度
海洋学部水産学科食品科学専攻	齋藤 俊郎 先生	2005年度
海洋学部海洋生物学科	村山 司 先生	2004年度 2007年
健康科学部看護学科	石井 美里 先生	2007年度
健康科学部社会福祉学科	阿部 正昭 先生	2013年度
経営学部経営学科	田中 靖久 先生	2009年度 2013年度
農学部応用植物科学科	松田 靖 先生	2006年度
農学部応用動物科学科	仁木 隆博 先生	2008年度
国際文化学部地域創造学科	広川 龍太郎 先生	2007年
国際文化学部国際コミュニケーション学科	張 雷 先生	2007年度
国際文化学部国際コミュニケーション学科	ハミルトンマーク C 先生	2007年度
国際文化学部デザイン文化学科	中尾 紀行 先生	2007年度
国際文化学部デザイン文化学科	田川 正毅 先生	2007年
生物学部生物学科	笠原 宏一 先生	2007年度
総合教育センター	吉田 厚子 先生	2002年度最優秀賞 2005年度 2009年度 2012年度
外国語教育センター第一類(清水教養教育センター)	栗原 ゆか 先生	2008年度
外国語教育センター第一類	シュロスブリーマーク リチャード 先生	2011年度
外国語教育センター第一類	中川 浩 先生	2013年度
外国語教育センター第二類	安 小鉄 先生	2006年度
外国語教育センター第二類	佐藤 浩一 先生	2010年度
課程資格教育センター教育学研究室	朝倉 徹 先生	2004年度最優秀賞 2005年度 2011年度
課程資格教育センター教育学研究室	杉崎 雅子 先生	2007年
課程資格教育センター教育学研究室	鈴木 正行 先生	2013年度
課程資格教育センター教育学研究室	平野 眞 先生	2010年度
課程資格教育センター博物館学研究室	篠原 聰 先生	2012年度
スポーツ医科学研究所	小澤 治夫 先生	2007年 2010年度

◎『よくない授業』ワースト3 ― 学生はこんな授業で困っています

1 シャベるのが早すぎる・板書の字が読み取りにくい

2 話し方が単調・聞こえにくい

3 学生の理解を確かめないで進む



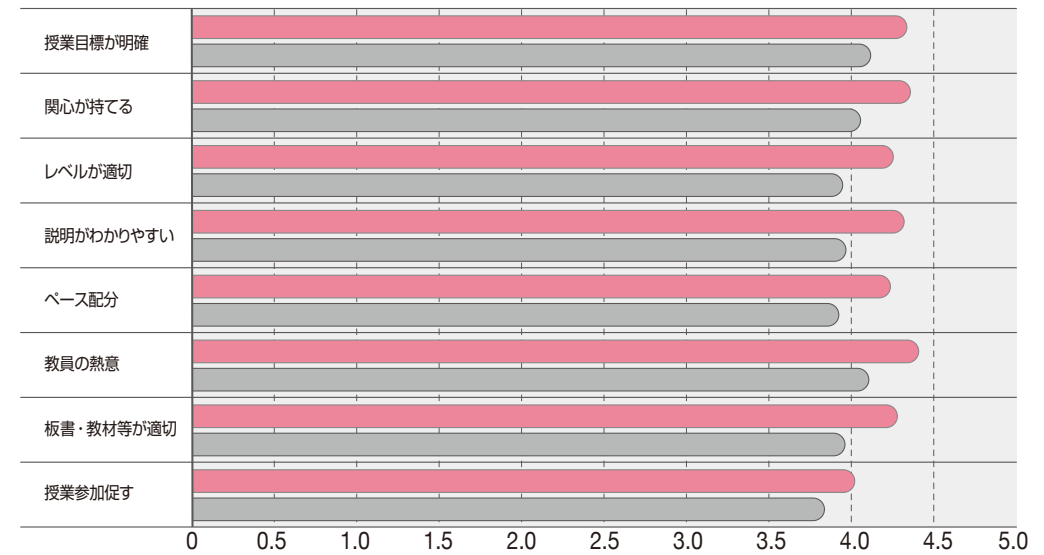
◎『いい授業』はここが違う

「わかる授業」の要素

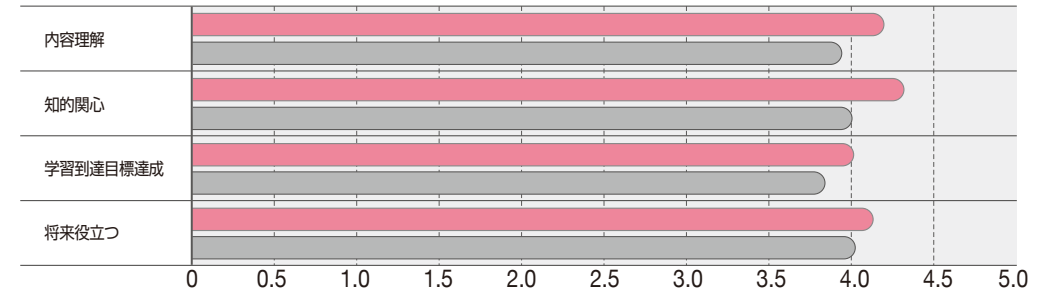


■Teaching Award受賞者と講義科目全体との比較(2014年度授業についてのアンケートより)

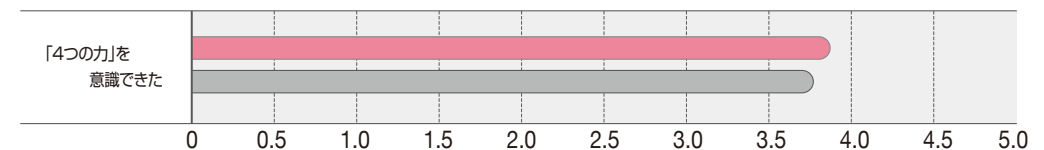
●授業内容と授業の進め方



●授業を通じて得られたこと

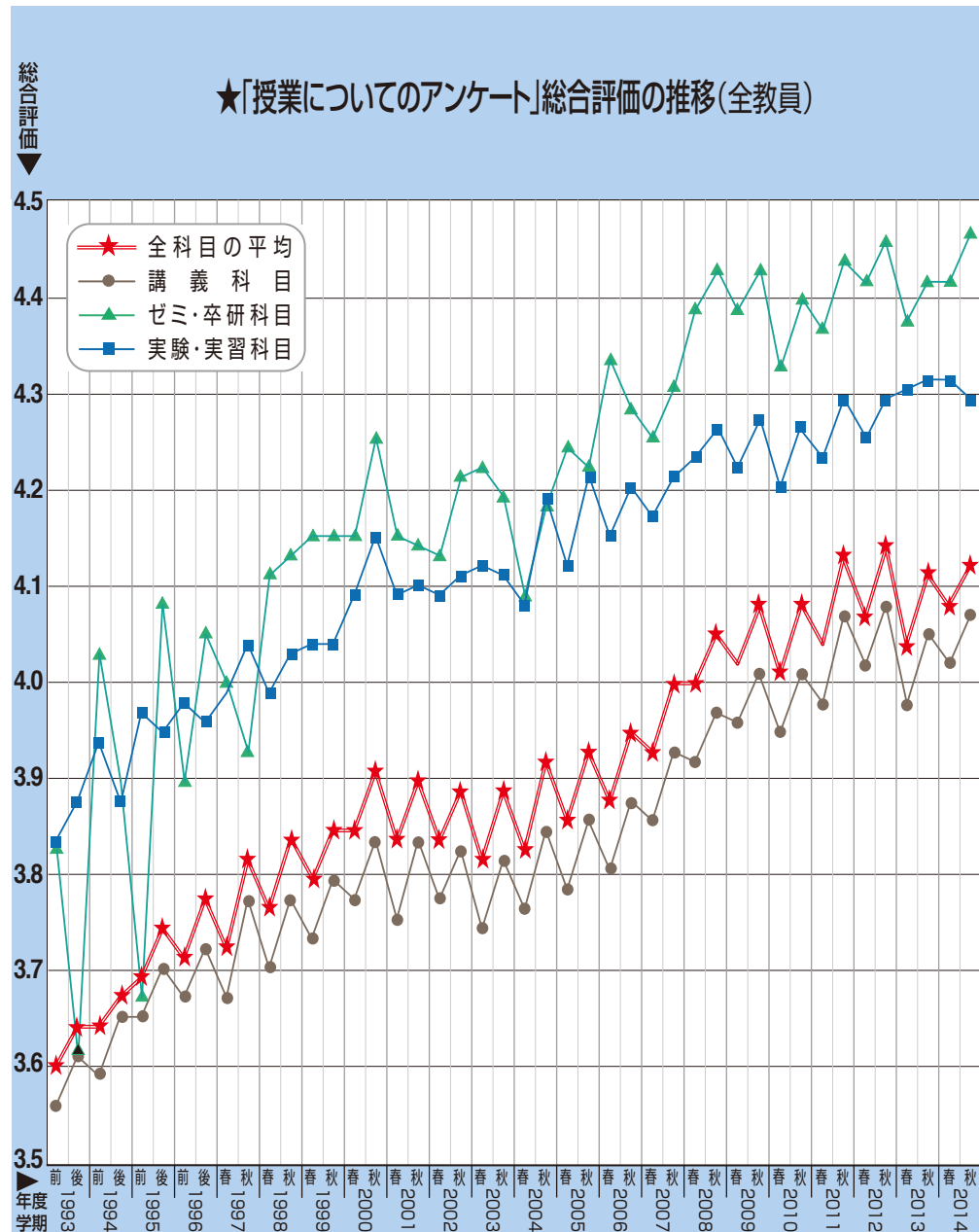


●『4つの力』について



●「だんだん増える『いい授業』」

「授業についてのアンケート」★総合評価 | **4.12** (5点満点中)
2014年度秋学期の平均



あなたの 東海大学の 学習支援 勉強をサポート

東海大学では、学生のみなさん一人ひとりの学習を **●** さまざまな形で支援しています。

- 自学自習で、「不足している学力を補いたい」、「さらに力をつけたい」という場合は、インターネットを使った『サイバーキャンパス(ネット学習)TICU』を活用してください。
- 英語や数学・理科の学習について、「個別に指導を受けたい」場合は、『E-Navi』『S-Navi』などで相談できます。

■サイバーキャンパス(ネット学習)TICU

誰もがいつでも自学自習できるe-Learning(電子学習システムによる学習)教材を提供しています。本学の全学生・教職員は誰でも利用(無料)できます。右記のURLに接続し、トップページにある「利用の手引き」及び「TICUで学んでみませんか」を参照して、ご利用ください。

URL TICUホームページ <http://www.cyber.u-tokai.ac.jp/>

■E-Navi —— 英語の学習支援室

●「E-Navi」は、英語が苦手な人から、英語のレベルアップを考えている人まで、英語に関するこの**個別の相談や学習指導**を行っています。みなさんに合った学習方法をアドバイスします。

- 湘南校舎 1号館2F
- 授業期間・定期試験期間の月曜～金曜 12:35～18:00

■S-Navi —— 数学・理科の学習支援室

●「S-Navi」は、数学や理科が苦手な学生が、授業内容の質問や勉強のやり方などを、**個別に相談**できる学習支援室です。勉強で困ったときは気軽に「S-Navi」に相談に来てください。

- 湘南校舎 18号館1F
- 授業期間・定期試験期間の月曜～金曜 12:35～18:00



●E-Navi, S-Naviへのお問い合わせは shien-navi@tsc.u-tokai.ac.jp